

研究業績説明書

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号	35	学部・研究科等名	くまもと水循環・減災研究教育センター
------	----	-----	------	-----------	----	----------	--------------------

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】

熊本が世界に誇る良質で豊富な地下水資源の保全とその持続的な有効利用、緑川・白川流域や球磨川流域を中心とする河川洪水の減災・防災、高い閉鎖性を有する八代海・有明海の生態系等の環境保全に関する研究教育を総合的に推進するという本センターの目的について広く関連する研究のなかで、国際的に非常に高い評価が得られている英文ジャーナルに論文が採択された研究を選定した。

2. 選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究成果 【最大3つまで】	学術的 意義	社会、 文化的 意義、 経済、	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等) 【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、 文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して 選定した 研究業績 番号	共同 利用等
1	5705	土木計画学・交通工学	行動経済学に基づく防災・減災行動の促進 防災・減災行動が行われない理由として、人間の脳の機能を由来とする心のクセに着目し、そうした心のクセに逆らわず活用できる環境を構築することで、そうした防災・減災行動を促す仕組みを構築する	Fuimi, T., Kajitani Y. and Chang E.S. (2016) Effective and persistent changes in household energy-saving behaviors: Evidence from post-tsunami Japan. Applied Energy, Vol.167, pp. 93-106.	S S		本センターの目指す研究に関連する防災・減災のテーマを扱っており、Impact Factorが7.2である国際ジャーナルApplied Energyに掲載された論文があるためである。Impact Factorが7.2であるため、「人と自然の科学」の学術誌の水準判断において、「SS」のImpact Factorの下限値である5.0を超えている。		
2	5705	土木計画学・交通工学	気候変動抑制政策の経済評価 気候変動抑制政策の効果を経済評価するために、computable general equilibrium (CGE)モデルを適用することのメリットとデメリットについて検討する	1. Babatundea, K.A., Begum, R.A. & Said, F.F. 2017. Application of computable general equilibrium (CGE) to climate change mitigation policy: A systematic review. Renewable and Sustainable Energy Reviews, 78: 61-71.	S S		本センターの目指す研究に関連する環境保全のテーマを扱っており、Impact Factorが9.2である国際ジャーナルRenewable and Sustainableに掲載された論文があるためである。Impact Factorが9.2であるため、「人と自然の科学」の学術誌の水準判断において、「SS」のImpact Factorの下限値である5.0を超えている。		